

奈良保育学院附属幼稚園・自己評価結果公表シート

作成：奈良保育学院附属幼稚園 園長 綿谷正之

<1> 本園の教育目標

建学の精神「敬身、敬学、敬事」を下に、「あしたが待ちどおしくなる幼稚園」を目標とする。

「体力向上」を目指して心身ともに健康な身体づくりをするとともに、豊かな心と自立できる力を育む。

幼稚園集団生活の中で、あいさつのできる子、決まりの守れる子等、幼児期の「躰」を十分に行い豊かな情緒の安定を図る。

子ども達に、いろいろな体験をさせ団体生活を軸に規律と調和のとれた生活を通して、園児の感受性を大きく成長させる。

教職員と園児が生活を共にすることで、愛情を持って園児たちと接することにより、園児と人間関係を築き困難を成し遂げる気持ちを育てる。

<2> 本年度の重点目標

◎安全に行動できる健康な体と運動能力を育てる。

- ・園児の体力向上を目指し外部講師による専門指導のカリキュラムのもとに、運動能力を高め、(体幹)を鍛える。
- ・基本的な生活習慣と健康な生活リズムが身につくように援助する。
- ・喜んで体を動かしたり、いろいろな運動を楽しんだりするように環境構成する。

◎思いやりの心を持ち、生命の大切さに気付く。

- ・生活の中での決まりを守ることの大切さを知る。
- ・身近な人との関わりを通して信頼関係を築き、人と関わる力を身に付ける。
- ・身近な四季おりおりの花や生物に触れる機会をつくり、感動体験を持ったり命の大切さに気付いたりできるようになる。

◎感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表減する力を養う。

◎幼小連絡会や特別支援関係との連携を持ち、共通理解のもとに教育を進める。

<3> 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成実施に関して教職員間の共通理解をはかる。	本園の目指す方向を確認しながら保育を進めていく必要があり、指導計画や記録の作成、保育の実践を行う。 職員会議や話し合いの時間を持ちながら、全教職員が一致協力して、望ましい連携体制がとれるように考える。

<p>幼稚園の状況をふまえて中、長期的なビジョンと計画を策定する。</p>	<p>120周年ビジョンを引き続き目標とし、教員の資質向上や、外部講師による専門教育を継続して行っている。</p> <p>体育指導においては、奈良県の運動能力調査で本園児は全ての項目で平均を上回る結果となり、今後もこの取組を継続し、これを維持・向上できるようにする。</p>
<p>教育の質の向上のため園内、園外研修を充実させる。</p>	<p>本園教員の資質向上のため全国私立幼稚園協会、奈良県私立幼稚園連合会、奈良市私立幼稚園協会主催の研究会、宿泊研修会、研修大会に参加し、夏休みを利用して、サマースクール等各自が進んで学びたい研修会に参加している。また園内では、職員会議や終礼等で、子どもの姿について話し合う機会を持ち、日々の保育の見直しを行う。</p> <p>また、校内でのマイスター研修を年6回行う。(外部講師5回 教諭1回) この内、年3回外部講師による特別支援研修を継続して行う。</p>
<p>保護者のニーズの把握につとめ、幼児期の育ちにふさわしい環境を浸透させる。</p>	<p>保護者との懇談を定期的(7月、12月)に実施するとともに、行事等についてアンケートを実施。出された意見に対して必要なものについては、園の考え方を示し改善すべきものは、改善するように取り組んでいる。</p> <p>北側園児トイレを改修し、子どもが気持ちよく利用できるトイレの環境ができた。</p>
<p>安全環境の充実に努め園内の環境整備を行う。</p>	<p>園内行事、日々の保育活動の施設の使用には、徹底した衛生安全はもとより、園庭整備、遊具等の安全確認を毎日行い、園児たちの遊具の使用には万全の目配りをしている。</p>
<p>預かり保育や子育て支援活動の推進に努める。</p>	<p>急速な高齢化と少子化が進行するだけでなく、社会構造が著しく変動する中で子育て支援として預かり保育を継続する必要がある。保護者の協力を得ながら早朝保育、延長保育の他、春休み、夏休み、冬休みも家庭の事情を考慮して長期預かり保育を実施する。(30日間)</p> <p>白藤アカデミー「やわらぎ子育てふれあいサロン」とは「もう悩まないともに学ぶ子育て講座」をテーマとし、孤立化している子育ての現状の中で、保護者が持つ不安感や負担感を少しでも軽減していけたらと考えている。また、子育ての中親子が気軽に集い、情報交換できる場として、今年度5回計画したうち、4回実施した。</p> <p>【5月25日、6月15日、8月22日、9月4日、(3月7日中止(新型コロナウイルス拡大防止の為))】</p>

<4> 学校評価の具体的な目標や計画の総合的は評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、取組み状況を話し、本園としての方針を明確にすることができ、それを実施する礎とすることができた。

<5> 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理の強化と緊急・災害時の安全確保	<p>避難訓練は今年度も月1回実施した。いろいろな災害時を想定し、実際にみんなで避難の行動をとり、日常から意識づけて訓練をする必要がある。(地震・火災・不審者・Jアラート等)</p> <p>不審者情報が県や警察から随時提供されるので、それに対して施設面での対応や教員の意識づけの向上をはかる。また本園の法人関係者と教職員との連携力を高め危機に対し危機対策マニュアルを随時見直し適切な対策を取れるようにする。</p> <p>非常時に備えて個人用(5年間保証)非常食を確保した。アレルギー用も確保できている。</p>
特別支援教育	<p>個別の支援を要する幼児の保育のあり方について講師を招いて年間3回の研修を積み学ぶ。奈良市私立幼稚園協会教員研修会の特別支援教育研修会に参加し、自立の遅れ(言葉や排泄面等)、コミュニケーション力、行動の気になる子どもに関しての理解を深め適切なアドバイスができるように学ぶ。</p>
情報の発信や広報活動の見直しと刷新	<p>ホームページを通して園の特色、教育方針、保育活動、行事等の最新の情報を発信に活用している。広報活動の面でも大きな力となっている。これからも継続する。</p>
地域との関わりについて地域との共生、地域に根ざした学園 ・白藤アカデミー事業	<p>○白藤アカデミー「やわらぎ子育てふれあいサロン」テーマ「もう悩まない共に学ぶ子育て講座」を実施する。</p> <p>「やわらぎ子育てふれあいサロン」を立ち上げて、年4回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月25日(21家族) 教職員がふれあい遊び、ペープサートなどを実施。 ・6月15日(6家族) 人形劇団「マリオネット&ミュージック」ボランティアグループ代表近田光男氏と7人の仲間による曲に合わせたマリオネットの創作ミュージカルを講演。 ・8月22日(20家族) 講師の高橋晴子氏、栗栖耕子氏、他2名「どんぐり corocoro」によるわらべ歌や親子のふれあい遊びを実施。 ・3月7日(新型コロナウイルス拡大防止の為、中止) <p>親子でふれあう楽しさやうれしさを講師と共に体験しながら、母親としての不安を自信に変える講座を実施。悩み相談も実施している。</p> <p>その他、9月4日保護者向け白藤アカデミー「手作り味噌」を実施し、保護者にも食育に関心を持てるような機会を設けた。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤い羽根共同募金 ・ 地域の介護老人福祉施設慰問 	<p>○社会福祉協議会の協力を得て、J R奈良駅にて年長組が、募金活動に参加する。来年度も継続予定。</p> <p>○年長組が介護老人福祉施設「桜の里」を慰問する。ダンス、歌など披露し喜んでもらった。</p>
<p>園に対する保護者の満足度の把握</p>	<p>建学の精神に則った私学の独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握し現代社会において求められる幼稚園の姿を確認することで本園のビジョンを策定する基礎とする。</p> <p>アンケートの実施・「あしたがまちどおしくなる幼稚園」を目標に、お子さんは幼稚園に楽しく通っていると思いますか？この問いに対して、そう思う 86%、ややそう思う 14%と肯定的にとらえてもらっている方が 100%になっていた。</p>

<6> 学校関係者の評価

特に指摘すべき項目はなく妥当であると認められる。

<7> 財務状況

公認会計監査により適正に運営されているとみとめられている。